

故郷（ふるさと）野付の自然 17

12月19日 白鳥の街「尾岱沼」

かつて、尾岱沼は全国的に白鳥の街として知られていました。もう数十年前の話ではありませんが、現在の春別川河口の白鳥台（道の駅：おだいとう）付近に沢山の白鳥があつまり、押し寄せた大寒波で川も湖面も凍りつき、餌が摂れない状況になりました。

それを救うために、野付小中の児童生徒や尾岱沼の地域の皆さんが懸命に、氷を割り餌を与える活動が行われていました。それが、全国的に大きなニュースとなると共に、白鳥の数も一時は1万羽を越えるようになったのです。

しかし現在は、春別川に堆積する土砂で地形が変わるなどして白鳥の数が少なくなると共に「白鳥祭り」も行われなくなりました。

尾岱沼に渡来する白鳥は**オオハクチョウ**で現在は、多くても1000羽程度に減ってしまいました。写真は、足環を付けたオオハクチョウですが、尾岱沼を忘れず渡来しているのですね。

何だか今の状況は寂しいですが、今でも尾岱沼と言えば、白鳥（オオハクチョウ）を思い出す人は多いはずです。野付中にとっても大事な歴史の一つですし、もう少しオオハクチョウの姿が見られるように考えてもいいかも知れませんね。

